■ 特別講義

平成 25 年 9 月 14 日(土)　10：00 ～ 11：30　法経第四教室

講義題目　**古代ローマ人の世界と私たちの世界**

――古代遺跡と『ハリー・ポッター』・『テルマエ・ロマエ』を結ぶ歴史学――

講　　師　文学研究科 教授　南川 高志

講義内容

ヤマザキマリさん作の漫画『テルマエ・ロマエ』やその映画で、古代ローマ人の世界は日本でもよく知られるようになりました。公共浴場をはじめとして、古代ローマ人は 2000 年も昔に、立派な建造物をたくさん作り、現代社会の先駆となるような世界を実現させたのです。彼らは、巨大な国家を築きそれを長く繁栄させたことで、世界史上でよく知られていますが、軍隊を使ってあちこちを征服しただけでなく、そこに高度な都市的文明をもたらしたことが今日高く評価されているのです。しかし、こうした「文明」をもたらしたローマ帝国という歴史理解は、近代のヨーロッパの特殊事情の下でできたことは意外に知られていません。この講演では、ローマ帝国が実際どのようなものであったかを遺跡・遺物の写真などをみながら解説した後で、「文明の帝国」ローマという歴史理解がいかにしてできていったかを紹介します。そこには、あの『ハリー・ポッター』のモデルとなったイギリスの学校も登場します。さらに、「文明の帝国」ローマといった評価とは別に、現代に生きる私たちが古代ローマの人々と直接向き合える方法もお話ししましょう。

プロフィール

南川 高志（みなみかわ・たかし）

1955 年三重県生まれ。1979 年京都大学文学部卒業、84 年京都大学大学院博士後期課程研究指導認定退学。京都大学文学部助手、大阪外国語大学助教授、京都大学助教授を経て、現在、京都大学大学院文学研究科教授。2008 ～ 2010 年京都大学理事補（教育・学生担当）を兼務。専攻は、西洋史、とくに古代ローマ史。最盛期から衰退期までのローマ帝国について、政治と社会を中心に研究している。これまで発表した著書として、『ローマ皇帝とその時代――元首政期ローマ帝国政治史の研究』（創文社、1995 年）、『ローマ五賢帝――「輝ける世紀」の虚像と実像』（講談社現代新書、1998 年）、『海のかなたのローマ帝国――古代ローマとブリテン島』（岩波書店、2003 年）、『新・ローマ帝国衰亡史』（岩波新書、2013 年）など、訳書として、古代末期に書かれたラテン語皇帝伝記集を訳した『ローマ皇帝群像』1（京都大学学術出版会、2004 年）やローマ時代のブリテン島を論じた P・サルウェイ著『〈1 冊でわかる〉古代のイギリス』（岩波書店、2005 年）などがある。